

◆ 2023 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 かわごえ里山イニシアチブ

26A-08

代表者：代表理事 増田 純一

URL : <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

農薬や化学肥料は、労働力を削減し、効率的なお米作りを可能にした一方、ネオニコチノイド系の農薬や化学肥料の弊害が取りざたされ、2021年度に農林水産省では、ネオニコチノイド系の農薬を極力抑える減農薬・減化学肥料による生物多様性有機農法の方向性が示されました。このような方向を見据え、早くから環境や生きものにやさしい生物多様性農法による「生きもの育む田んぼプロジェクト（田んぼPJ）」に取り組んできました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2023年度は、会員数約75名、田んぼPJ参加者40名でした。

例年通り3月から田んぼ整備に入り、苗床づくりや種の温湯消毒を行いました（延べ50名）。4/1は恒例の地域連携で行う堀さらい（地元民約60名、里山会員10名）、4/29種まき（約25名）、育苗と続き、5月の連休はレンゲ祭りで田んぼを開放しました。5/27田植え、7/1はコロナ明けで生き物調査を大々的に実施しました（約40名）。環境指標生き物が多く発見され、環境が大きく向上したことが示されました。7/15地域と2回目の堀さらい、田んぼ文化の伝承として8/5マコモでお盆飾りづくり、8/27かかしづくりを行いました。9月の稲刈りを経て11/12に久しぶりの収穫祭を開催し、大勢の会員や地域の人で賑わいました（約35名）。9/30小江戸のハワイフェスティバル（約2,000名）、10/1アースデイ、12/3ファーマーズマーケット（18,000人）、12/10北部ふれあいセンター祭り（約1,000名）、12/17大しめ縄づくりを行い、地元の赤城神社や川越八幡宮に奉納しました（延べ25名）。1/20に稲作文化の伝承としてマコモ葉の野焼きに合わせてどんど焼きと繭玉づくりイベントを開催しました。2/17学校給食が広げる子どもと地域の未来を開催（約300名）。



地域と共に行う堀さらい



「探究学習」農業体験
田の草取り



生きもの調査



日高田んぼ女子プロジェクト



川越八幡宮しめ縄奉納

3. 活動の成果

田んぼをフィールドにした活動を多岐に渡り行うことができ、生物多様性の向上に大きく貢献しています。助成金で購入したマコモ茶製造機材を利用して、障がい者就労支援施設によるマコモ製品の製造が軌道に乗りました。また、2023年度では新規に、①高大連携で行う「探究学習」による農業体験授業、②初めての無農薬コメ作りを指導して発足した「日高田んぼ女子プロジェクト」、③埼玉未来大学の研修生受け入れの農業体験、の3事業を行いました。これらにも円滑な支援を行うことができ、生物多様性の理解や普及に大きく成果をあげています。

4. 今後に残された課題

経済的基盤の確立も少しずつ成果をあげてきていますが、拠点の確保や活動が活発化するにつれNPO運営基盤や事務処理の円滑化が課題となっています。